

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【三橋中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	今年度は授業での基礎的、基本的な知識の定着を図る活動を多く取り入れることができた。しかし、来年度に向け、基礎的な内容をさらに定着させるためには学年や個人で差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。国語では文法の事項や古典の歴史的仮名遣いの項目、数学では方程式などの正答率が低いため来年度の課題である。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の思考・判断・表現において、国語の問題も数学の問題も未回答の確率が1%ほどだった。タブレットでの実施のため書く作業から入力になり、答えやすくなったのかもしれない。しかし、学校の定期テストなどにおいて、どの教科でも記述の問題への未回答は依然として多いため来年度は減らしていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では、各教科について「勉強は好きですか。」という質問に対し、肯定的な意見がさいたま市の平均を大幅に下回っている。「自分で計画を立てて勉強をしているか。」という質問に対しても、2年生は肯定的な意見が少ない。このことから、「解けた」「分かった」という成功体験を増やし、「自ら進んで学習に取り組む姿勢」を来年度は養っていく必要がある。授業での実践を増やし、生徒自身の自己肯定感を上げられるようにしていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒ 国語では、授業内で漢字、文法、歴史的仮名遣いの小テストを行い、辞書を用い新出語句の意味調べを行う。数学では、基礎学力の向上を図るために授業の初めに計算の小テストを行う。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査において、英語の「読むこと」において、65ptを上回る。 R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒ G・Sと国語の授業では読み取りの力をつけるために音読を積極的に行う。また、数学では自分の考えを論述したりする課題を設定したりする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 学校で授業を受けるだけでなく、家庭学習の習慣をつけさせるため、テスト期間に学習の予定を自分で立てさせ、自発的に学習に取り組ませる。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	昨年度との比較で、国語+17pt、数学-3ptであった。しかし、プラスにはなったものの国語の知識・技能はさいたま市の平均を下回る結果となっている。また、数学は昨年度と比較ではマイナスで、さいたま市の平均も下回っている。	B
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査において、英語の「読むこと」において昨年度の結果を上回ることができた。 R4年度さいたま市学習状況調査では、国語が+10pt、数学が-18ptであった。数学はさいたま市の平均自体が-15ptのため、平均と同じくらいの推移となっている。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「自分でやるか決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」という質問に対して、さいたま市の平均よりも1年生が+3pt、2年生が+1.5pt、3年生が-1ptであった。肯定的な意見が全学年90%を上回った。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、数学と英語で全国平均を上回ることができた。特に、数学の「知識・技能」においては、全国平均を大きく上回っている。しかし、漢字や英語の記述の問題で無回答率が高かった。
思考・判断・表現	「思考・判断・表現」においても、全国平均を全ての教科で上回ることができた。しかし、どの教科においても、記述の問題に無回答率が高い。国語の文章を作ったり、数学の式にあてはめたりする力が必要である。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%を超えた。

- 調査結果分析(7-8月)
- ①結果分析(管理職・学年主任等)
  - ②詳細分析(学年・教科担当)
  - ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	社会の「世界と日本の地域構成」についてと、理科の「生命」の領域でさいたま市の平均を上回った。平均を下回ったのは国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や、数学の多くの分野、社会の「歴史」の分野、理科の「エネルギー」を柱とする分野となっている。生活習慣の調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか。」という質問に対して、さいたま市平均とほぼ同数が「している。」「どちらかといえばしている。」と答えている。
中2	数学の「関数」「データの活用」の分野と、理科の「地球」を柱とする分野でさいたま市平均を上回った。平均を下回ったのは国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「図形」、社会の多くの分野、理科の「エネルギー」を柱とする領域など、1年生の下回った分野と似ていることが分かった。生活習慣の調査では、「将来の夢や目標を持っているか。」と、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか。」という質問に対して、肯定的な意見がさいたま市の生徒の平均を下回っている。目標や夢について具体的な見通しがもてると、学習の意欲にもつながっていくのではないかと。
中3	3年生は今回の調査では生活習慣に関する事項のみのアンケートであった。「朝食を毎日食べているか。」という項目に対して、肯定的な意見がさいたま市の平均を上回り、80%以上の生徒が「食べている。」と答えている。また、「将来の夢や目標を持っているか。」「家で自分で計画を立てて勉強をしているか。」という質問に対しても、肯定的な意見がさいたま市の平均を上回る結果となっている。3年生は進路に向けて具体的な目標をもって学習するようになるため、生活習慣や学習の習慣が整った生徒が多い。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし